

企画展

ボタニカルアートで楽しむ

日本の桜

—太田洋愛原画展—

Japanese Cherry Blossoms

Illustrated by Ohta Yoai, a Pioneer of the Botanical Art in Japan

2023 (令和5)年 3月14日(火)～4月9日(日)

国立科学博物館 (東京・上野公園) 日本館1階企画展示室

開館時間／午前9時～午後5時

※入館は閉館時刻の30分前まで

休館日／毎週月曜日

※ただし3月27日(月)・4月3日(月)は開館

入館料／一般・大学生630円(団体510円)

※常設展示入館料のみでご覧いただけます。

※団体は20名以上

※高校生以下および65歳以上無料

主催：国立科学博物館

協力：上野桜守の会、東京都立大学牧野標本館、練馬区立牧野記念庭園

お問い合わせ

TEL：050-5541-8600(ハローダイヤル)

FAX：03-5814-9898

URL：<https://www.kahaku.go.jp/>

※会期等に変更となることがあります。

※入館方法の詳細はホームページをご覧ください。



国立科学博物館

National Museum of Nature and Science

日本のボタニカルアート(植物画)の先駆者、
太田洋愛が描いた貴重なサクラの水彩画約100点を展示するとともに、
その描画の素材となったサクラの押し葉標本のほか関連資料を公開します。
展示する植物画の多くは、日本のサクラ研究の集大成ともいえる出版物
『日本桜集』(文・大井次三郎 画・太田洋愛 1973年)の原画です。
本企画展を通じてサクラの自然史研究における太田と大井の業績を紹介します。

第1章:サクラの自然史

日本に自生するサクラの種類やその故郷であるヒマラヤのサクラ、
日本で花開いた花見文化とその中で作出された園芸品種などを
標本や文献で紹介します。

第2章:桜のボタニカルアート

2-1 科学のための桜図 - 『日本桜集』までの道のり
日本のサクラの多様性を明らかにする研究の歴史の中で、論文などに印刷された植物画は、種類の特徴を正確に広く伝えることに大きな役割を果たしました。これまでサクラ研究のために描かれた代表的な図を展示します。

2-2 太田洋愛と大井次三郎

江戸時代に始まった日本のサクラの自然史研究は、国立科学博物館の名誉館員・大井次三郎と太田洋愛の共著『日本桜集』にまとめられました。ふたりの業績とサクラとの関わりを紹介します。

第3章:太田洋愛の桜図

『日本桜集』に掲載されたサクラの原画を多数展示するとともに、研究の証拠とするため、描画の素材となった枝から作製された貴重な押し葉標本を初めて公開します。

トピックス

サクラの葉、花、樹皮などの利用や世界のサクラの仲間について紹介します。

太田 洋愛(1910-1988)

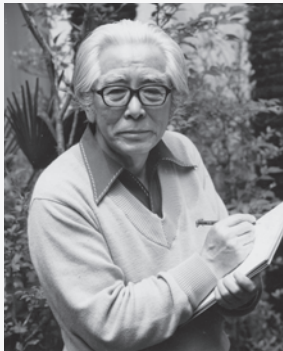


写真:個人蔵

愛知県田原市に生まれる。愛知県立成章中学校(現在の成章高等学校)在学中に洋画家・細井文次郎に洋画を学ぶ。1929年、旧満州(現在の中国東北部)に渡り、満洲教育専門学校植物学教室にて大賀一郎に師事し植物画の道に進む。また、牧野富太郎から描画材料を贈られ、指導を受ける。終戦後ソ連軍の捕虜となり中央アジアに抑留され、1948年に帰国。帰国後は教科書や図鑑の植物画を数多く手がける。1970年、日本ボタニカルアート協会を創立。主な著書は『原色日本のラン』、『日本桜集』、『さくら』など。

大井 次三郎(1905-1977)

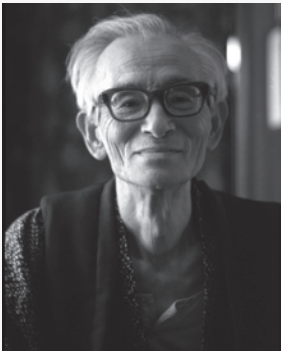


写真:東京都立大学牧野標本館

東京都江東区に生まれる。1930年、京都帝国大学(現在の京都大学)農学部を卒業。小泉源一の指導を受ける。京都帝国大学、ボイテンゾルグ植物園(現在のインドネシア・ボゴール植物園)を経て、国立科学博物館に勤務する。国立科学博物館名誉館員。イネ科、カヤツリグサ科などの分類に関する数多くの論文を発表するとともに、日本の維管束植物全般の分類に関する知見を総括した『日本植物誌』を出版。国際的に高い評価を受けて英語版も刊行された。1971年、朝日文化賞を受賞した。



すべて
太田洋愛作
上段左:「アメリカ」
上段中:「天城吉野」
上段右:ヤマザクラ
下段左:「鶯桜」
下段右:キンキマメザクラ

交通ガイド

- JR
「上野駅」公園口から徒歩5分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線
「上野駅」から徒歩10分
- 京成電鉄
「京成上野駅」から徒歩10分

※当館には駐車場および駐輪場は
ございません。

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
TEL : 050-5541-8600(ハローダイヤル)
FAX : 03-5814-9898



関連イベント情報・入館方法の詳細等については、
当館ホームページをご覧ください。

<https://www.kahaku.go.jp/>

